

若者への和菓子の普及活動報告

白山市地産地消課・地元和菓子店9店舗・イオンモール白山と協力して、若者への和菓子の普及と和菓子業界全体の活性化を目指した「敬老の日キャンペーン」を企画・実施した。また、小中学生に向けた和菓子体験会を開催や地元「おまっと牛乳」と「翠星高校産イチゴジャム」を合わせた、苺ミルク味の琥珀糖を地元和菓子店「有彩霞堂」との協働開発・販売した。

今後は「敬老の日キャンペーン」を全国で展開し、若者への和菓子の普及と和菓子業界を活性化させ、日本の伝統文化「和菓子」を守り続けていきたい。



1 はじめに

石川県における和菓子製造の歴史は江戸時代に遡る。加賀百万石の礎を築いた前田利家公は茶の湯への関心が高く、お茶に欠かせない菓子作りが盛んとなり、和菓子文化が石川県に育まれてきた。しかし、地元和菓子店から「石川県の和菓子業界全体が若者の和菓子離れに悩んでいる」と相談を受け、令和元年に若者への和菓子の普及を目的とした「翠星・和菓子部」を結成した。

2 活動の経緯

地元和菓子の認知度を上げるため、毎年全国和菓子甲子園に参加している。令和2年、地元白山比咩神社「恋文奉納」の巻物をモチーフにした「恋つゝみ」で優勝し商品化された。令和3年は「まめ友禅」で全国大会奨励賞を受賞。しかし、和菓子甲子園で受賞した菓子そのものは話題になりましたが、和菓子全体が注目されるには至りませんでした。



「恋つゝみ」



第11回全国和菓子甲子園優勝



「まめ友禅」

3 活動内容

(1) 市内産牛乳を使用した加工品の開発

地元食材の魅力発信と和菓子の普及を目指し、市内和菓子店「(有)彩霞堂」と白山市産「おまっと牛乳」と翠星高校製造「翠星イチゴジャム」を使った琥珀糖の協働開発を行った。試作を重ね最適な配合を見つけ、美しい色合いやシャリシャリとした食感を出すことができた。琥珀糖の販売に向け「(有)彩霞堂」城戸口社長に試作品を試食頂き「これなら問題なく販売できる」と評価をされた。校内や翠星高校文化祭、「いしかわ百万石文化祭 2023」で販売し、「(有)彩霞堂」では通年販売されることになった。総売上数は 264 個 (80 g 入) であった。



「(有)彩霞堂」協働開発



「おまっと牛乳と翠星イチゴジャムの琥珀糖」



琥珀糖の販売

(2) 小中学生への食育活動

和菓子の需要について調べると「敬老の日」に貰って嬉しいプレゼント第1位が和菓子だとわかった。敬老の日に地域子ども達に和菓子のことを知ってもらいたいと考え、令和5年9月16日、市内小中学生に向けた和菓子体験会を白山市の協力のもと開催することができた。計12組15名の子ども達と令和4年全国和菓子甲子園で大会特別賞を受賞した「ほーほけきょ！」を製造しました。「ほーほけきょ！」は白山市産グリーンピースを使った羊羹である。体験後のアンケート結果では、「和菓子を初めて作った」35.7%、「和菓子職人という仕事に興味を持った」100%と、子ども達に和菓子の魅力を発信した。



白山市産グリーンピース



「ほーほけきょ！」



和菓子体験会

(3) 「敬老の日キャンペーン」の企画立案

白山市内の和菓子店でキャンペーン共通の商品「そくさいな」を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る」新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界全体の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を企画立案した。「そくさいな」とは石川県の方言で「元気な」という意味があり、年長者を敬う敬老の日にいつまでも元気でいてほしいという想いを込められている。


翠星・和菓子部「敬老の日和菓子を贈ろう」大作戦！

敬老の日キャンペーン



石川県立翠星高等学校
食品科学コース
翠星・和菓子部

敬老の日キャンペーンとは？
白山市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る文化」の定着を図り、和菓子文化を盛り上げる。高校生が発信することで、特に若者への普及を目指す。



「そくさいな」を購入すると…

贈られた人 → 「健康長寿祈願のメッセージカード」がもらえる
贈った人 → 「敬老の日そくさいなメッセージコンテスト」に参加できる

「そくさいな」は、石川県の方言で「元気な」という意味です。年長者を敬う敬老の日に、「いつまでも元気でいてほしい」という想いを込めて名付けました。

翠星高校

- ◎ お守り型メッセージカードの作成 → 白山比咩神社へ依頼
- ◎ ログ・ポスターなどの販促物作成

和菓子店

- ◎ 「各店のそくさいな」をキャンペーン期間中に販売
- ◎ キャンペーンの周知

白山市

- ◎ そくさいなHPでキャンペーン告知、各店の商品を掲載
- ◎ 「敬老の日そくさいなメッセージコンテスト」の運営

「敬老の日和菓子を贈る」新文化を白山市から全国に発信！

決定した「敬老の日キャンペーン」

(4) 「敬老の日キャンペーン」の実施

令和5年9月16日から18日の間、白山市地産地消課・市内和菓子店9店舗・イオンモール白山の協力のもと「敬老の日キャンペーン」を開催することができた。9月14日翠星高校にて、全店舗共通の菓子「そくさいな」のお披露目会を開催した。お披露目会の様子は、北國新聞、テレビ金沢、MROなど計6社のメディアに取り上げて頂いた。また、市内小中学校全生徒約9,300人にチラシ配布も行い、多くの方々にキャンペーンをPRすることができた。和菓子店の中には、毎日「そくさいな」が完売しているというお店もあり、嬉しい声を聞くことができた。

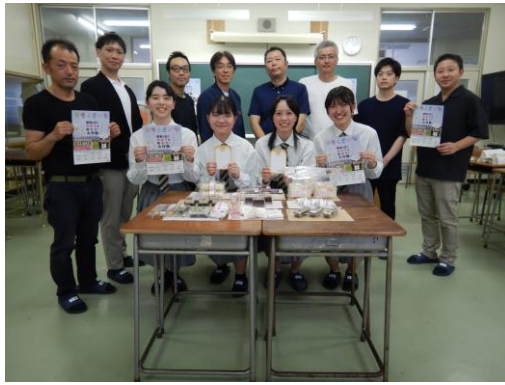


「そくさいな」とは

そくさいなを購入できる店舗

和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部
和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部
和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部
和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部	和菓子部

敬老の日キャンペーンチラシ



お披露目会 集合写真



キャンペーン当日「和乃菓ひろの」

4 成果・まとめ

琥珀糖の販売を通して、若者を中心とした地域の方々に地元食材の魅力発信・和菓子の普及をすることができ、若者の和菓子離れ解消に貢献することができたと考える。

和菓子体験会などの食育活動で、和菓子の魅力を伝えることにより、小中学生に和菓子の普及ができた。

白山市・地元和菓子店9店舗・イオンモール白山と協力して、「敬老の日キャンペーン」を開催できた。「敬老の日キャンペーン」終了後に各和菓子店にアンケートを実施した結果、「手ごたえや反響があった」が44%、「和菓子業界の活性化に繋がる」が89%、「若者への和菓子の普及に繋がる」が75%であった。このことから、「敬老の日キャンペーン」は若者への和菓子の普及と和菓子業界の活性化に繋がることがわかった。

5 今後の展望

今後も「敬老の日キャンペーン」を継続し、「敬老の日に和菓子を贈る」新文化を白山市から全国に発信し、根付かせたい。そうなれば、和菓子の知名度は上がり、全国的な和菓子の消費低下や後継者不足の改善だけでなく、和菓子を通して若者と年長者の絆も深められると考える。「敬老の日キャンペーン」を全国で展開し、若者への和菓子の普及と和菓子業界を活性化させ、日本の伝統文化「和菓子」を守り続けていきたい。

石川県立翠星高等学校翠星・和菓子部